

研究分野のキーワード：子どもの表現，音楽表現遊び，アート，保育者養成，感性・創造性・想像力

研究紹介

皆さんは「音には“色”や“重さ”がある」という言葉を聞いて、どのように感じますか？これだけではちょっと分かりにくいかも知れないですね。でも私たちは、音を聴いているとき、聴覚だけでなく視覚やその他の五感を使って感じています。また実際に音楽と美術やダンスなどいろいろな分野の芸術とのコラボレーションによる作品も多く生み出されています。オペラやミュージカルといった舞台はもちろんのこと、ダンスや映画などもそうですね。音や音楽からイメージして表現したり、聴衆や観客にイメージを伝えるために音楽を用いたりします。さて、そのように考えると始めの「音には“色”や“重さ”がある」という言葉も何となく分かる気がしませんか？

私たちの身の回りには「音楽」があふれています。コンサートやライブに出かけたり、好きなCDを聴いたりしますね。またテレビやラジオからは様々な音楽が流れ、映画やドラマにも多くの音楽が使われています。それだけでなく、生活の中にはもっとたくさんの「音」が溢れています。「音」には様々な音色や高さ、大きさ、長さがあります。それらの音の繋がりがメロディやリズムになって、またいくつかの音が重なって聴こえれば響き（ハーモニー）になります。私たちの感じ方次第で、身の回りの「音」は「音楽」になります。

さて、子どもたちは、様々な感覚が“ごちゃまぜ”になっていると言われています。子どもたちはごく自然に音のイメージを絵に描いたり、動きのリズムを歌にしたりして楽しみます。そのような感覚は成長とともに聴覚・視覚などの五感に分かれていきます。

私はそのような子どもの感性に注目した、聴覚と他の五感を結び付けた音楽表現遊びについての研究を行っています。また、子どもたちの自由で創造的な表現を理解し共感することのできる保育者を育てるための研究も行っています。身の回りの様々な音を色や形で表現したり、動きのイメージを音で表現しながらアート作品を創作する過程を通して、子どもや保育者を目指す人の感性・創造性・想像力を豊かに育むためのいろいろな遊びの開発を目指しています。

アートの世界は無限です。そして子どもたちの表現もまた無限です。私は研究を通して、より多くの子どもたちや保育を目指す人たちに想像する楽しさ、表現する楽しさ、音楽する楽しさを味わってほしいと考えています。